



大森第二中学校 保護者通信

令和3年10月11日
大森第二中学校
校長 成清敏治
TEL 3762-6456

進路説明会（10月7日）

さて今日は進路説明会です。皆さんの将来へ踏み出す第1歩になる大事な会です。2年生の学年集会でも話をした、私が担任をした2人の卒業生の話します。

1人は野球部に所属する男子生徒。投手として素質に恵まれ、区大会で注目されて、高校からもぜひうちにきてほしい、と声がかかるような生徒でした。入試はもちろん推薦。私立のN高校に進学しました。2年後にはもしかしたら甲子園に出場できるかもしれない、と雑誌などにも取り上げられ、私も成長ぶりを楽しみにしていました。しかし、1年生の秋に肩を痛めてしまいました。投手にとって肩の痛みは致命傷です。思ったより長い期間痛みが引かず、それからの彼は、球拾いや雑用の毎日だったようです。野球ばかりやっていたので勉強は全然できない状況。痛みもひかない。とうとう1年生の単位が足りず、留年することになりました。そして2年生になる前に学校を中退してしまいました。その後、やることなすことうまくいかず、ちょっとした犯罪にも手を染めてしまい、人生を大きく踏み外してしまいました。

もう1人は、生徒会役員も務めた女子生徒。受験勉強にも熱心に取り組み、上位の学校をめざしていました。私立高校を3校受験しましたがすべて不合格。都立を受験してそれも不合格。どうするか迷いましたが、私立で二次募集があり、そのK高校に進学しました。彼女の成績からいえば、かなりレベルの低い学校です。しかし、彼女なりに高校に入ったらこうしようという目標がありました。留学をしたいという思いから、民間団体の留学に応募し、短期留学を果たしました。その時の経験をもとに、途上国の発展に係わる仕事をめざし、英語など3カ国語を高校時代に修得し、K高校を1番の成績で卒業しました。その後、大学に進学し、専門的に国際協力の分野を学び、現在では国際連合の関連会社に就職し世界を飛び回っています。

この2人の生き方から何が見えるでしょうか。極端に言えば、高校に合格したこと、不合格になったことは、その後の人生を決定づけるものでないこと。高校に入って何をすることが大事なこと。そして困難に負けない心を中学校時代に身に付けることだと考えます。

今年の受験はコロナの影響で様々に変更点があります。これから説明をしっかりと聞いて、受験近くになって慌てないように準備をしていってください。

保護者の皆さまへ

中学校の進路指導は、進学指導ではありません。「生き方」を含め、長い人生の土台となるキャリアを積んでいく作業が進路指導です。自分の役割を自覚し、他者と様々な課題を共有しつつ、どう貢献していくかを考える生徒を育てていきたいと考えています。保護者の皆さまのご理解をよろしくお願いいたします。

